

北九州市 観光振興 プラン

「暮らす人」「訪れる人」が、
ともにわくわくする観光・交流都市

ゲストとして迎え、友人として送り出そう



はじめに

北九州市の観光地としてのポテンシャルは、とても大きいと確信しています。

九州の最北端に位置する北九州市は、海と山に囲まれた景観の美しさ、大地と自然の恵みがもたらす海の幸、山の幸など、様々な魅力が満ちあふれています。

また、産業都市としての蓄積と、これまで育んできた歴史・文化・世界遺産などの観光資源を大切に守り、磨き、活かしながら、国内外から多くの人をお迎えし、交流してきました。

一方で、コロナ禍を経て、社会環境、人々の意識・行動なども変化したことから、より多くの人を呼び込み、都市全体に潤いをもたらす好循環を生み出す仕掛けづくりが、これまで以上に重要となっています。

このようなことから、この度、次代を見据えた観光振興の新たな方向性を示すものとして、「北九州市観光振興プラン」を改訂することとなりました。

また、このプランでは、市民のみなさまが、自ら北九州市を楽しみ、愛着・誇りをもって、このまちを盛り上げることも大きな目的です。

北九州市が持つ可能性はとてつもなく大きく、驚きや面白さがたくさん詰まっています。引き続き、多くの人々が北九州市を訪れ、楽しんでいただき、北九州市のファンになっていただける観光・交流都市づくりに取り組んでまいります。

「北九州観光交流都市 元年」。

新しい価値を、新しい時代を、わくわくする未来を、この北九州市から発信しようではありませんか。

市民、観光事業者など観光・交流に関わるすべての人々がベクトルを合わせ、その力を結集して、北九州市を盛り上げていきましょう。

最後に、このプランの策定にあたり、多くのご意見、ご提案をいただいた市民のみなさま、本プランの策定に多大なお力添えをくださった関係者のみなさま方に心から御礼申し上げます。今後とも北九州市の観光振興の推進にご理解ご協力いただきますようお願いいたします。

令和5年4月

北九州市長 武内和久



目次

第1章	観光振興プラン改訂にあたって	1
1	観光振興プラン改訂の目的	2
2	北九州市の未来に向けた観光・交流の役割	3
第2章	北九州市の観光の現状と課題	4
1	北九州市の観光の現状と強み	5
2	コロナ禍を経た社会環境・観光の変化	7
	コラム 市民から見た北九州市の観光 —市政モニターアンケート結果より	10
3	北九州市の観光の課題	11
第3章	北九州市が目指す観光	12
1	観光振興プランで目指す姿、基本方針	13
2	取組期間とKPI	13
3	4つの戦略+3つの地区別アクションプラン	14
第4章	プラン実現のための戦略と主な取組	15
	戦略Ⅰ 「暮らす人」「訪れる人」がともに楽しめる観光資源の磨き上げ	16
	戦略Ⅱ ファン・リピーターづくりのための戦略的なプロモーション	19
	戦略Ⅲ 「訪れる人」の満足度向上に向けた環境整備	21
	戦略Ⅳ 何度も訪れ、楽しんでもらうための持続可能な観光地づくり	23
	コラム 観光地における「おもてなしトイレ」について	26
第5章	地区別アクションプラン	27
1	地区別アクションプラン策定のねらい	28
2	小倉都心部	29
3	皿倉・東田地区	32
4	門司港レトロ・和布刈地区	35
第6章	プランの推進に向けて	38
1	推進体制	39
2	推進スケジュール	39
3	プランの見直し、評価体制	39
資料編		40
1	統計データ、各種調査の実施・公開	41
2	観光振興プラン検討会名簿	43
3	観光振興プラン検討会の開催状況	43

第1章

観光振興プラン改訂にあたって

1 観光振興プラン改訂の目的

(1) 社会変化に対応した、観光振興プラン改訂の必要性

北九州市は、平成18(2006)年に「北九州市観光振興プラン」を策定、その後、平成26(2014)年に改訂し、観光振興に取り組んできました。

しかし、令和2(2020)年以降の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大によって、観光をめぐる状況は大きく変わりました。多くの国や地域での海外渡航制限や、国内における旅行控え、外出自粛の影響などにより観光需要が激減し、宿泊、交通・運輸業をはじめ、飲食、小売業など、観光に関わる産業が大変厳しい状況に陥りました。

さらに、国内外の社会環境や人々の意識も大きく変化し続けています。持続可能な社会・観光への関心の高まり、急速なデジタル化やマイクロツーリズム(近隣観光)の広がりなど観光をとりまく環境は、大きな変化の時期を迎えています。

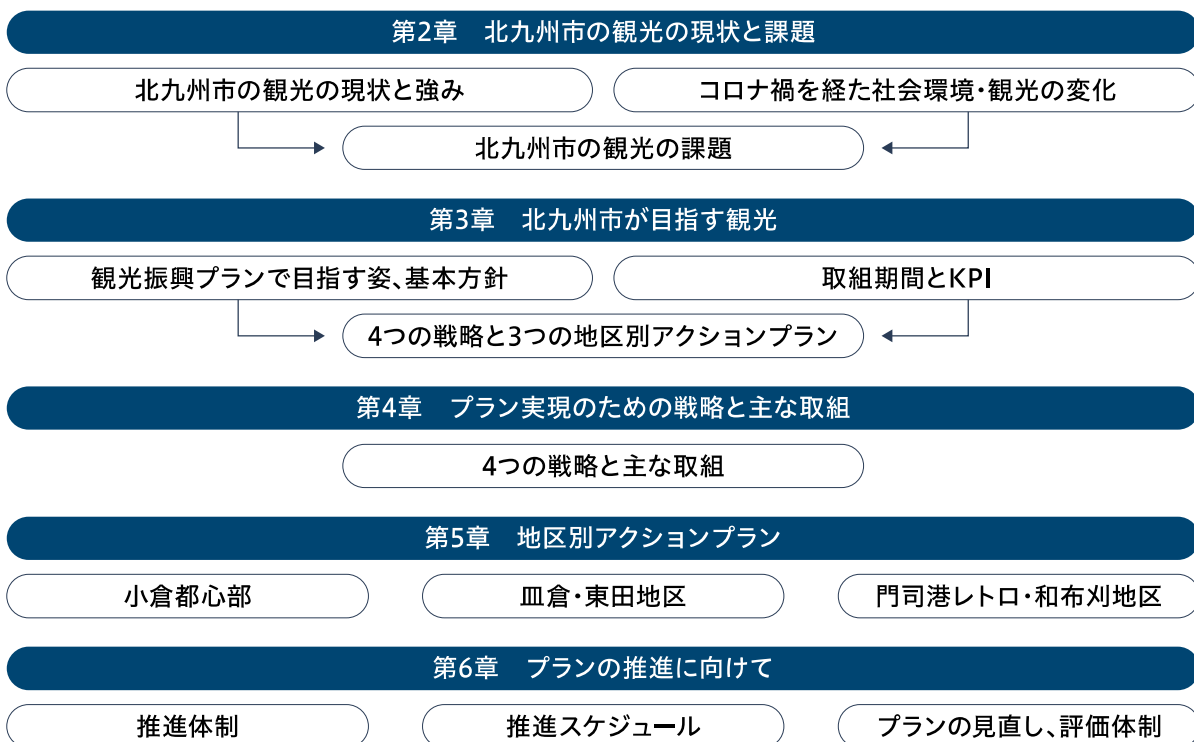
こうした環境の変化を踏まえ、北九州市の魅力とは何か、未来に向けて取り組むべき具体策は何かを改めて考える必要があることから、今回観光振興プランを改訂します。

また、このプランは、北九州市の観光振興に関する基本的な方向性を示すとともに、令和2(2020)年度に導入された宿泊税を、これからの社会変化に対応させ、より有効に活用させるための指針となることを目指します。

(2) 観光振興プランの構成

観光振興プランの改訂にあたっては、まず北九州市の観光の現状やコロナ禍を経た社会変化、これからの課題などを整理した上で、観光振興プランで目指す姿、基本方針、その実現に向けた戦略を策定します。さらに、戦略を実現するための具体的な取組、推進体制などを定めます。

図1 北九州市観光振興プランの構成



2 北九州市の未来に向けた観光・交流の役割

(1) 観光・交流とともに発展する北九州市

北九州市は、世界遺産(「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」)や、日本遺産(「関門“ソスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」)のほか、「日本新三大夜景都市」全国一位に認定された夜景など、多くの魅力を有しています。また、世界的なものづくり企業の拠点や、大学を含めた多くの学術研究機関が立地し、さらに公設・民設のミュージアム(美術館・博物館)など数多くの文化拠点、プロスポーツや国際大会も開催されるスタジアム、国際会議場や西日本総合展示場等のMICE※1施設などの魅力が加わり、年間を通して全国、海外から多くの人が集い、交流しています。

加えて、市民、企業、行政が一体となり公害を克服してきた歴史や、平成30(2018)年に全国で初めての「SDGs未来都市」に選定され、環境と経済の好循環による「ゼロカーボンシティ」を目指すまちの姿は、教育旅行や視察旅行など、多くの人々が北九州市を訪れるきっかけとなっています。

さらに、現在、若松区響灘でプロジェクトが進んでいる洋上ウインドファームは、今後観光資源としても期待されています。

このような北九州市の歴史や文化、産業など、暮らす人が育んだ魅力が、訪れた人との交流するきっかけ作り、にぎわいや活気、新しい文化を生み出す原動力となり、都市の発展につながっていきます。



皿倉山からの夜景



響灘の洋上ウインドファームイメージ図
(グリーンエネルギーポート事業紹介動画より)

(2) 関係人口※2、定住人口の創出につながる観光・交流

観光に対するニーズは、「観光名所を見に行く」ことから「そこで何ができるのかを重視する」ことへ、そして「現地での交流、体験、学びを楽しむ」ことへと変化しています。

北九州市はこれまでも都市としての利便性や歴史・文化、豊かな自然が共存する独自の魅力が、多くの「訪れる人」を惹きつけてきました。

今後は、このような魅力を一層磨き上げるとともに、「訪れる人」と「暮らす人」が交流し、ともに楽しんでもらえるよう工夫することが必要です。

「訪れる人」が地域の魅力を味わい、楽しむことにより、北九州市のファンを増やし、ひいては、それが関係人口、定住人口の増加につながります。

※1 MICE…企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。

※2 関係人口…移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々。